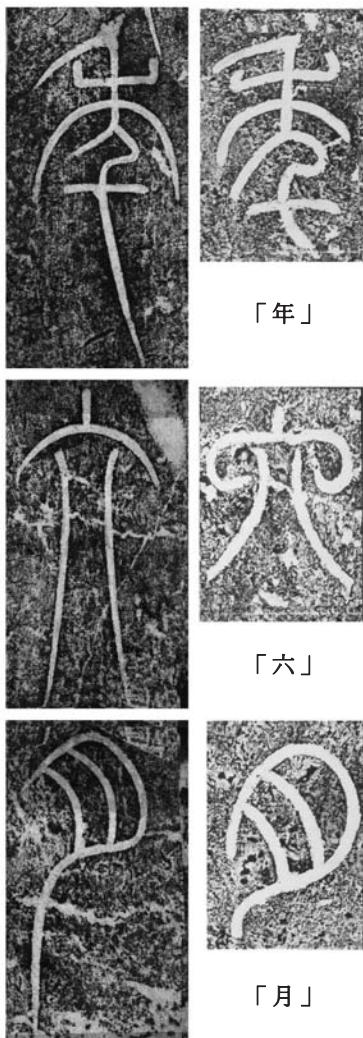
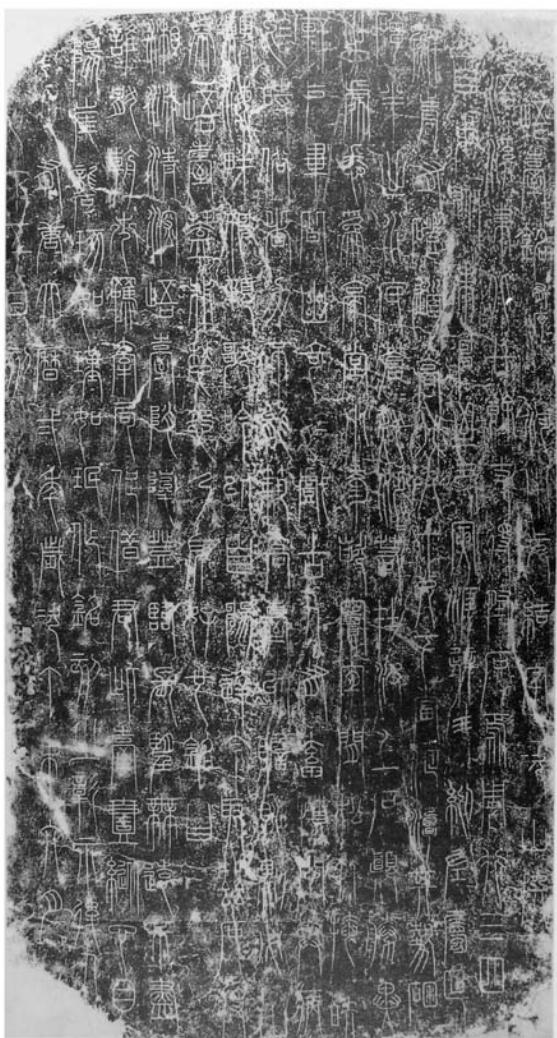


図版③「袁安碑と比較」



図版②「整拓本」



峿台銘

大歴二年（767）
(唐時代)

旧い書法様式の刻石⑩

木
鷄

木雞室
伊藤 滋

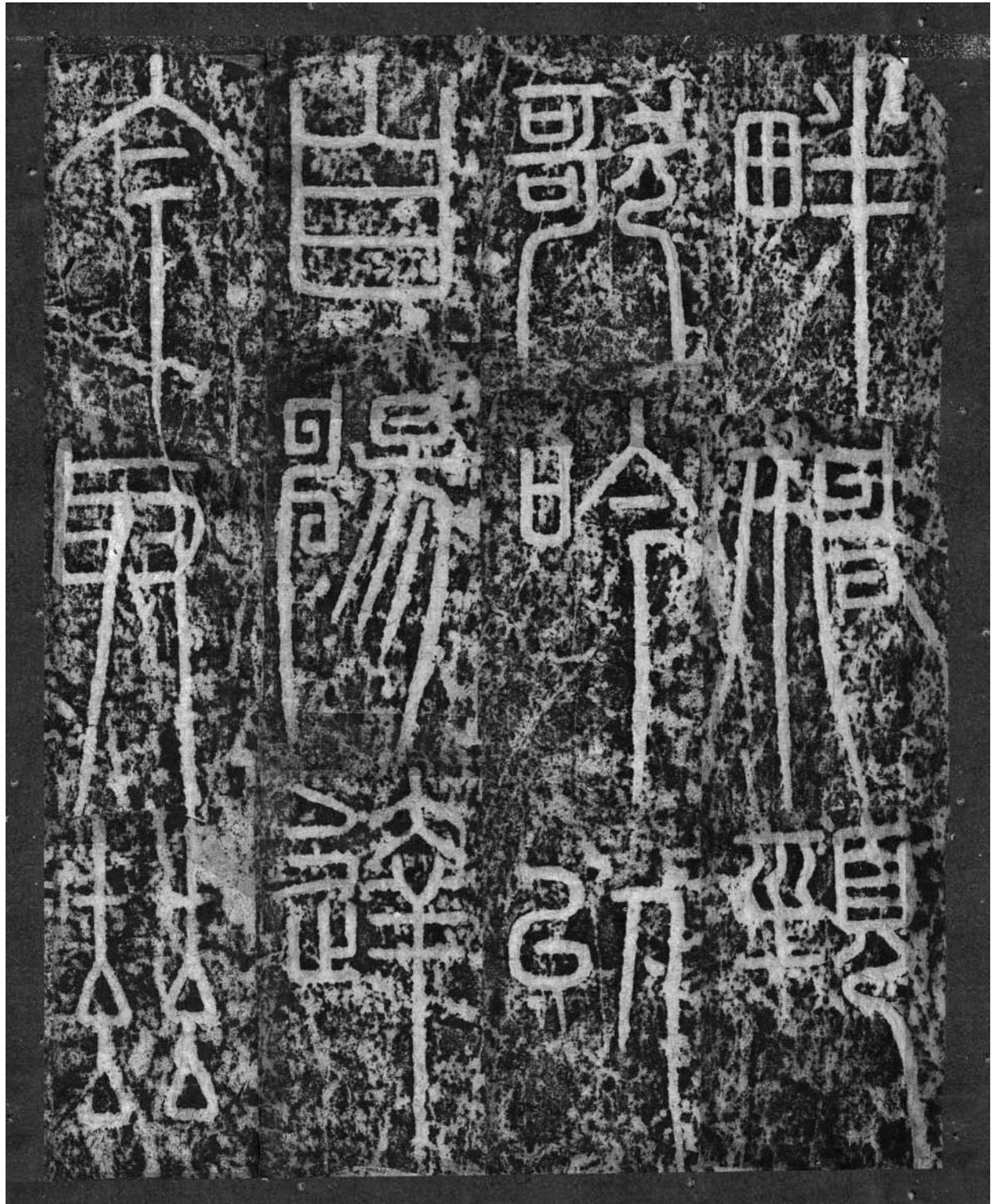
中国の湖南省祁陽県湘江の支流、浯溪の入り江の岩壁に刻された摩崖刻石である。風光明媚な川沿いに広がる岩壁には多くの摩崖刻石があり、「浯溪碑林」と称されている。浯溪碑林の第一は、顔真卿の「大唐中興頌」(761年)であろう。今回紹介する「峿台銘」は、顔真卿が活躍していた時代である。峿台銘の文章は、元結(顔真卿は元結碑を書いている。)の作であり、筆者は、碑文には名前がないが、古来より瞿令問(くれいもん・生卒年不明)とされている。一字が、横4.5センチ、縦10~11センチ余り、書体は篆書である。左頁の主図版に見られるように、縦画は大変伸びやかで鋼鉄線の様な強さを示している。(以前紹介した漢の「袁安碑」と比較するとその顕著さが理解されるであろう。挿入図版③参照)文字の構成は、縦長で安定し、摩崖に刻された文字とは思われないほどに整然と書かれている。歴代の著録には、「峿台銘」の篆書は、古文に基づき、ずさんな文字構成は無いと讃えられている。縦画の終筆部分が、針のように細く尖っていることに因んで、「懸針篆」と称せられている。唐時代であるが、篆書の習熟度は相當に高く、この種の伝統的な書風がある程度用いられていたことを示す重要な刻石であろう。

今号で、「旧い書法様式の刻石」は終了します。この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス

mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

図版① 「やや縮小」 稹文「畔伸頸、歌吟以、自暢達、今取茲」



書道芸術院 平成の群像 (2013)



上 柳 佳 規

漂泊の俳人・

せいげつ

乞食井月の書

天衣縷縷百千伎樂百味飯食屋宅姪吉一
切可演之物皆患船與知通法師嘗如歌佛
如事父母如事火婆羅門法佛子如事帝釋
父母師僧日日三持札歎為法捨身沒命乃
是佛子如是求法之人乃可為說菩薩之大
行百十万佛轉授瓊珞法門時十億大眾嘆
言未來世中无法元三寶元賢人時劫徒惡
世趣故其說法者具聽法者曷難曷難復從
坐起各各悲泣號聲大動地轉海波三千剎
震二十八宿日月不現大眾遂稱神力極然
而啟受持讀誦解說義句十劫不滅元窮元
盡各各歡喜奉行作札而退

菩薩瓊経本集經卷下

佐規致書

墨

平成24年董雲書展

芭蕉に師事した井月は、越後長岡の武土の出といわれ、幕末から明治にかけて伊那谷を放浪した俳人で、晩年は乞食井月と呼ばれ「落ち栗の坐を定めるや雀溜り」の句のように美篤末広太田窪の栗の木の繁る塩原家に婿入りして終焉（明治20年66歳）。

井月の映画『ほかいびと・井月』の北村皆雄監督は「井月は、無一物を志向したが、さりとて世捨て人ではない。この上なく酒を愛し、俗の塵にまみれ、庶民の哀歎の中に身を置き、どこかに祝いがあれば駆けつけて祝いの句を作

母校美篤小学校（現伊那市）のほどに井上井月の『何處やらに雀の声きく霞かな』の句碑が建ったのが昭和15年、4年生の時だった。小学校では村独自の学校備え付けの副読本「郷土誌」で郷土の歴史を学び、井月が村民になっていたことを知った。

芭蕉に師事した井月は、越後長岡の武土の出といわれ、幕末から明治にかけて伊那谷を放浪した俳人で、晩年は乞食井月と呼ばれ「落ち栗の坐を定めるや雀溜り」の句のように美篤末広太田窪の栗の木の繁る塩原家に婿入りして終焉（明治20年66歳）。

井月の書物は各種刊行されてきた。書は、自作句、連句、芭蕉の幻庵記等々、短冊、色紙、条幅、襖、屏風、俳額と多彩。時々開かれる鑑賞会のほかは、50基に及ぶ句碑で鑑賞した。幸いに、この3月中半から所蔵家等の協力を得て、伊那市の創造館に井月の書が常設展示される。うれしいです。

◎私ごと、細楷（写経）に没入、その奥の深さに挑戦しています。

り、子供が生まれたといえば寿ぐ俳句を置いていった。人が亡くなつたと聞けば、挽歌をうたつた。

俗っぽい歌、平凡な句もある。井月はその月並みな言葉で誰もが感ずる気持ち、人々の心に思いを寄せ、古代の歌人の歌詠みのように、句を読んで歩いた。いつしか、伊那の人々に、並々ならぬ俳句、書の達人と知られることとなり、あの家、この家、俳句をたしなむ人々の家々に2日、3日と世話を受けるようになつた。彼の俳句は、村人に受け入れられて、ようやく一宿一飯を得たものだった。井月は祝詞の俳人であり、挽歌の俳人であった」と記している。（映画は平成23秋完成上映）

3・11から2年になる。震災は絆の大しさをよみがえらせた。

井月が伊那谷で30年放浪し、一八〇〇を句作、多くの書を遺したのも絆のと思う。

句は、昭和初期に全集が発刊、以来

井月の書物は各種刊行されてきた。

書は、自作句、連句、芭蕉の幻庵

記等々、短冊、色紙、条幅、襖、屏風、

俳額と多彩。時々開かれる鑑賞会のほ

かは、50基に及ぶ句碑で鑑賞した。幸

いに、この3月中半から所蔵家等の協

力を得て、伊那市の創造館に井月の書

が常設展示される。うれしいです。

漢字(六)

石田春窓

かな(六)

平川峰子



「涛」

石田春窓書

「涛」は毎日書道展で、第1回訪中書の研究視察団として中国を訪問しました時、訪中団の団長として、一緒にさせていただいた故大平山涛先生の一字をいただきました。あれから30年になります。私は初めての訪中で、雨の洛陽、漢中はまだ工事中でした。

褒河ダムが建設された時に石門はダメの中へ沈んだと説明がありました。雄大で、すばらしい景色は今も印象

に残っています。当時を振り返りながら「涛」はスケールを大きく、ゆったりと明るい作品になればと思いました。恩地先生にはいつも的確な指導をしていただき、書を通じて素晴らしい先生方と巡り会い、家族の理解もあり、うれしく思います。今後は初心を忘れる事なく続けていきたいと願っています。

に残っています。当時を振り返りながら「涛」はスケールを大きく、ゆったりと明るい作品になればと思いました。

恩地先生にはいつも的確な指導をしていただき、書を通じて素晴らしい先生方と巡り会

い、家族の理解もあり、うれしく思います。今後は初心を忘れる事なく続けていきたいと願っています。

21世紀の書

—私の主張—

生まれ育った故郷を振り返る年齢になってきました。瀬戸内海の小さな島々の風景は当たり前だと思っておりましたがその自然を美しいと感じるようになります。自慢したい故郷とは1200年以上前の西暦774年三筆の人である空海が誕生した所です。子供の頃から「四国八十八ヶ所巡礼のお大師さん」と親しみを込めた言い方で耳にしていたその方の御誕生の地は讃岐平野の西に位置し、父君の諱「善通(よしみち)」をとつて「善通寺」

と号し、京都の東寺、和歌山の高野山とならぶ弘法大師三大靈跡の一つとして今も篤い信仰を集めています。804年遣唐使として渡った折、王羲之や顏真卿の書風の影響を受け、中国では五筆和尚、日本では入木道の祖と仰がれたことは周知のことですが、讃岐出身の私としては、餽飴を唐から持つて来た観光うどん県の祖であり、日本最大の農業用ため池である「満濃池」の改修を指揮されたことに感謝の意を強くしております。およそ身近なものほどその良さに気付かないものです。



2009年4月玉松会書展

平川峰子書

第44回 現代女流書100人展

同時開催=現代女流書新進作家展（第64回毎日書道展会員賞受賞作家）

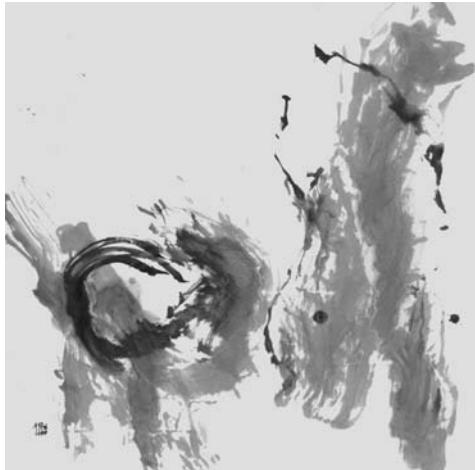
会期=平成25年2月6日(水)～14日(木)

会場=日本橋高島屋 8階ホール

主催=毎日新聞社 後援=毎日書道会

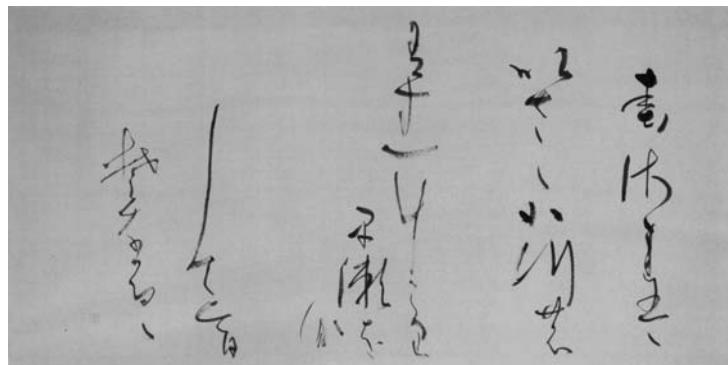
^\
振
^

香川倫子



90.5×90.5cm

石井明子

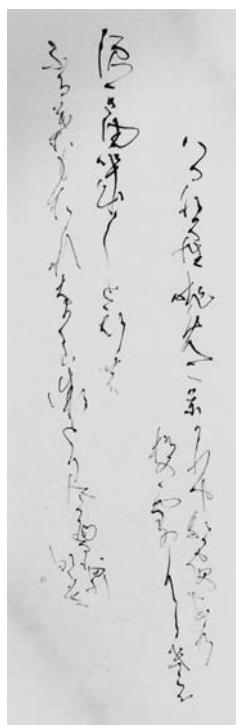


〈平福百穂のうた〉

69.5×136cm

〈春ながら〉

大辻多希子



183×60.5cm

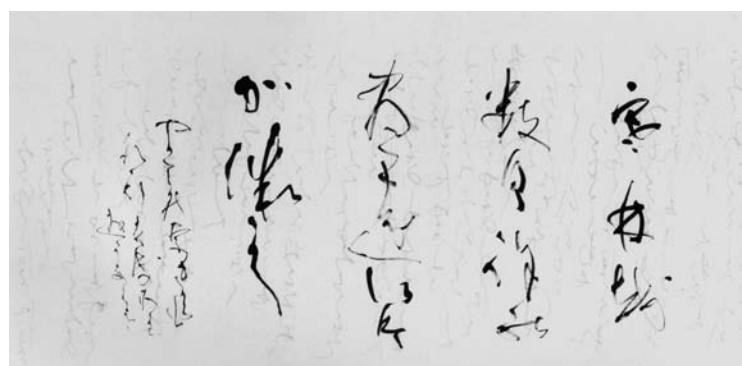
〈七言句〉

半田藤扇



177×86cm

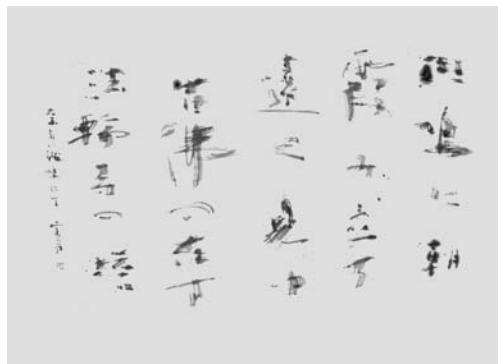
下谷洋子



〈雪林を〉

70.5×138.5cm

上村棠芳

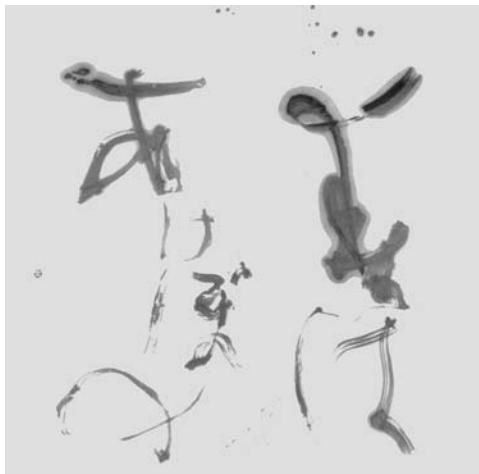


〈霞み立つ法輪寺の塔〉

104×140cm

特集：現代女流書100人展

〈春はあけぼの〉



泉
雪華

120×120cm

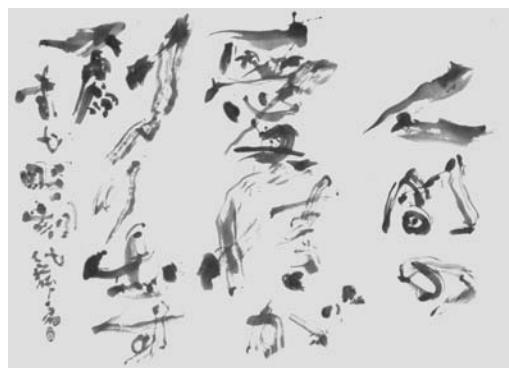
熊谷宗苑



〈震災〉

91×133cm

森
舞扇



〈愛〉

97×133cm

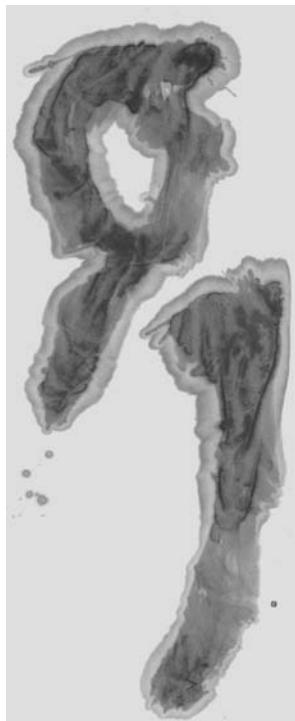
崎井恵風



〈巳〉

135×105cm

〈ゆく〉



滝 春芳

180×70.5cm

〈嘉(よろこび)〉



新井 京華

184.5×69.5cm

〈福寿草〉



佐久間 幸扇

146×66cm

新進作家展

〈希望〉



平岡 千香子

152×69.5cm

特集：現代女流書100人展



会場風景



来賓と書道芸術院関係の祝賀会出席者

特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

<解説>

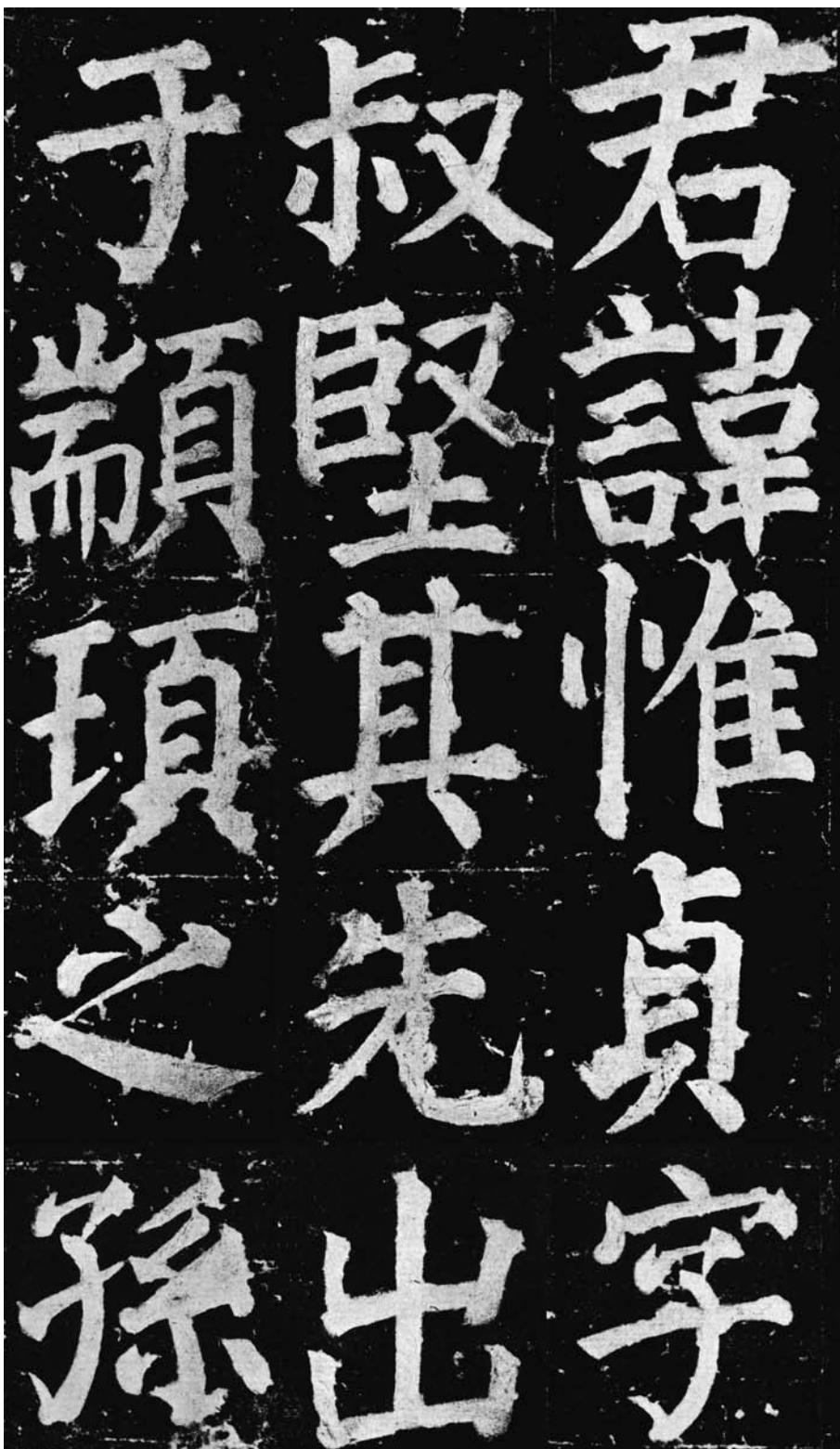
顔氏家廟碑は、顔真卿72歳の書。一字ごとに界線一ぱいに堂々と書かれている。文字の形は、枠目を一つのメドとする程度で、点画や字形はいずれも何の虚飾もなく、直筆藏峰で、72年のこれまでの人生

を鋒先の一点に集中し、ひたすら黙々と運筆する彼の姿を髣髴とさせるのである。その気力の張りが点画に漲り、一字を貫き自然にそれぞれの文字を構築している。

(編集部)

用紙 半紙普通判
左の法帖の中から
何文字臨書してもよい。
(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)



于顓頊之孫

叔堅其先出

君諱惟貞字

毎日展公募サイズ以内・縦横自由
左記の掲載以外も可

〔注〕・かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上

を書く。（全臨も可）

・落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

・用紙は半紙普通判（料紙可）（たて長に使用）
別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は、半紙サイズに切って
使用のこと。

〈よみ〉

としふればありし人だにみえ
不見
なぐにつらき心はなほやのこれる
久尔
となむいひやりたりけれどかへ

りごともせざりければおなじ
佐利
人のもとに尔
本

しらゆきはほどのふるにもつもりけり
利
かはおもひにきえかへりつゝ
可

かへし

見よしのゝやまにつもれるしらゆき
万尔
のとみにきゆべきみが心
支見可
をとこ、
まかりそめてまたえま
万利所多

からで

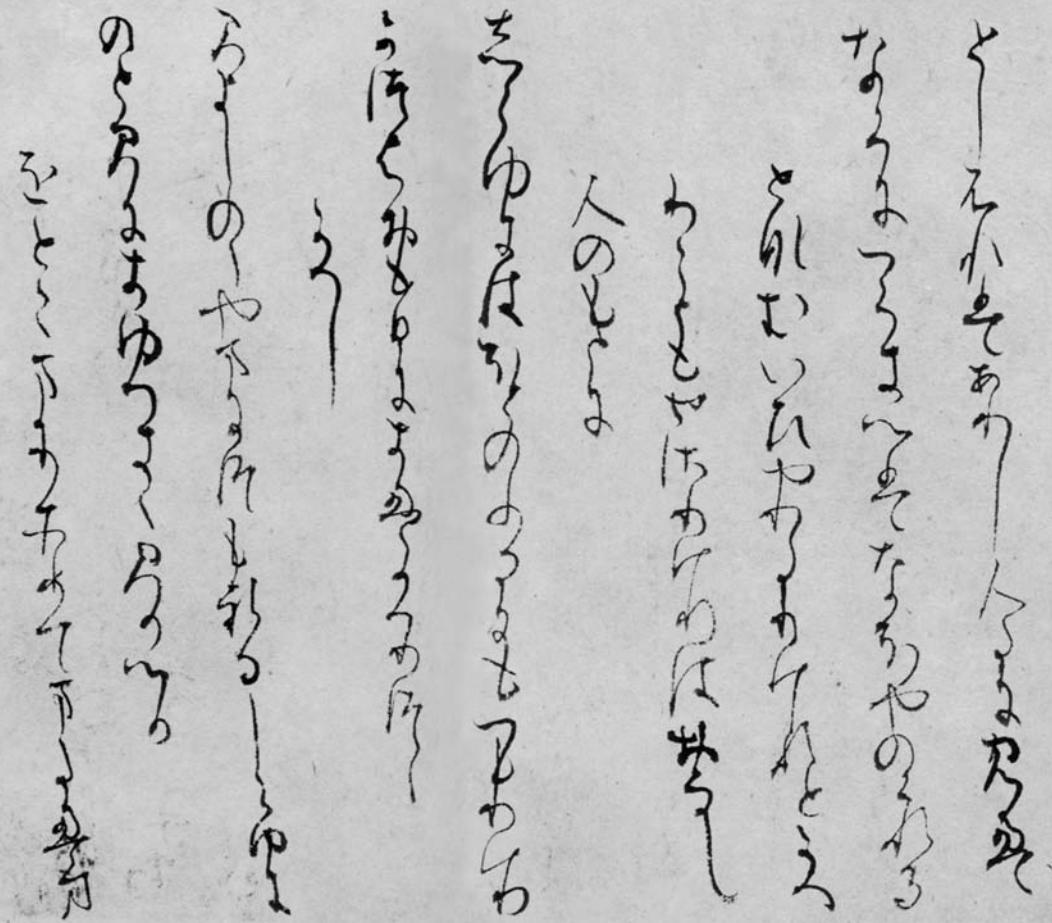
〈解説〉

一条撰政集は、字形や行の動きに合わせて巧みな墨継ぎが行われ、墨のかたまり、白の集まりなど、集団化して行が動く様子がよく解る。

行の中心が通りながら文字が横に広がりを見せる姿など、多彩な表現は西行より前の時代11世紀末から12世紀前半とされるかなの造形美と共通するところがある。

藤原伊尹の家集としては、本書の写本以外に伝本がない。この一条撰政集は、会津の松平家に伝來したもので、時期は不明ながら、古筆に詳しい田中親美（1875～1975）を介して三井財閥の経営者・益田鈍翁（1848～1938）が入手した。戦後個人蔵となつて今日に至っている。（編集部）

よみ



最首翠風

草含春而色動
(草は春を含みて色動く)

最終回は木簡隸、漢簡の書風を参考として掲げました。

展覧会における漢字作品の動向

として圧倒的に多いのは明清調の連绵草ですが、近年特に目立つのが篆書作品、又はほぼ四十年前に

発見された秦から漢時代にかけての簡牋の書や帛書の書風でしょう。

篆書が全盛だった秦代の日常書体として、又篆書から隸書への移行期の文字として貴重な資料であると同時に現代的な創造性が広がる書体です。

書の楽しさは無限です。そして書の美は人の数だけある筈です。参考作品は白狸の堅い筆を用いる生氣と原初的な感じを演出したものです。



草含春而色動

よみ
(草は春を含みて色動く)

書体=自由

習い方解説 (六)

小浜大明

大道無門
(大道無門)

無門闇
(無門闇)

「今で最後となります。今まで
顔法と欧法を念頭に学んできまし
たが、今回はそれらに立脚し、自
由に伸びやかに表現してみて下さ
い。

「大」左右の払いは伸びやかに。
又、左払いは横画に接する
迄は垂直を保つて書きます。
「道」しんにゅうの一画目の点と
二画目は近づきすぎないと。

「無」三本の横画の間隔は、上を
広くとります。一番下の長
横画は古法にある“断所連
連所断”(虚画は連げて書
くが、実画は切っても良い)
を参考に、二回に分けて書
きました。
「門」“九成宮”的に背勢で
書きました。それにより形
が引き締まります。

習い方解説 (六)

石井明子

はなみちてうす紅梅こうばいとなりにけり

(加藤曉台)

—

子
孫

卷之二

۷۱

よみ方 は(者)な(那)み(三)ちて(弓)うす(春)紅梅となりに(一)け(希)り(里) 曜台の句

創作

はなみちてつす紅梅となりにけり
(加藤暁台)

加藤暁台(さとうだい)
は、江戸中期の俳人、名古屋の人。
武藤白尼の門人で、蕪村らと交遊。
梅は、中国原産で、古く日本に
渡来し、平安期以降は、香と共に
愛らしい花の姿は詩歌に多く詠ま
れてきました。

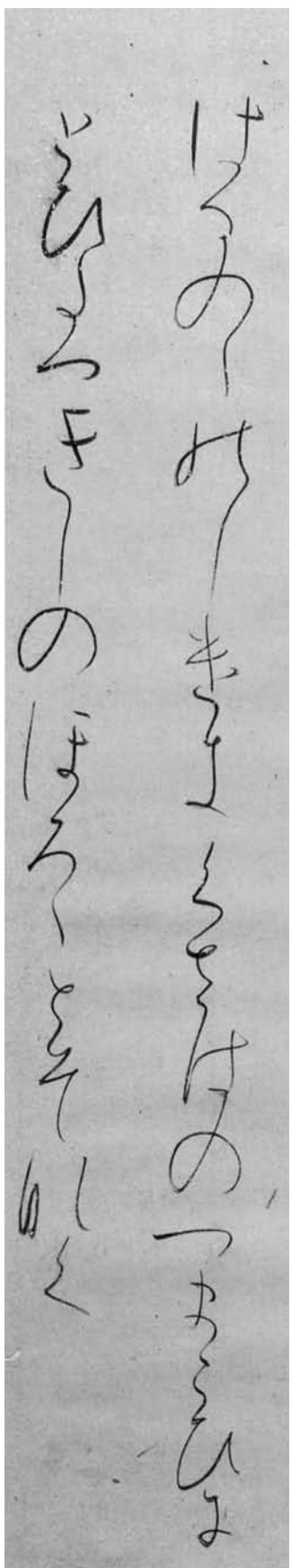
シンプルな内容はシンプルに書
きたいのですが、視覚がそれを許
さないことがあります。紙面を物
足りないものにしない工夫が必要
です。字数は関係なく、作品には
華やぎがほしいものです。

手の内にあるもので無難に制作
することから、一步踏み出して、
使ったことがない文字や、書きに
くい嫌いな文字を試してみません
か。一字に、丁寧に思いを寄せて。
句の作者は、この表現を許容し
てくれるかしら? と思うばかり。

かな規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 はるのゝの(能)しげ(遣)き(支)く(久)さばのつまこひに(示)
とびた(冬)つきじのぼろゝとぞな(那)く(久)

かな条幅規定【四月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

奥田瑞舟選書



習い方解説 (三)

奥田瑞舟

花のうへにしづしつかぶタづへ
日入るとわなしにかけますにけり
(永福門院)

新潮社 句歌歳時記 春より

よみ方 花のうへに(一)しば(者)し(志)うつるふタづ(徒)く日。
入るともなしに(一)かげ(遣)きえ(盈)に(尔)け(介)り 風雅集のうたを 「風雅集」より永福門院

創作

出品券

*よこ形式に限る

左へ動いていく。墨継の位置も、
それぞれ違うと思います。工夫し
てください。
で、歌集名を入れました。
最後余白が大きくなりました。

横書き終わってその時の呼吸のま
ま、次の行頭の一文字までを意識
して書きます。
行が独立の形に見えないように、

それぞれ違ったと思います。工夫し
てください。
で、歌集名を入れました。
最後余白が大きになりました。

漢字条幅規定 初段以上 【四月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

習い方解説 (六)

辻元大雲

春の陽光に輝く風景を詠んだ句です。

路逐山光何處盡
春隨草色向南深

(路は山光を逐つて何れの處にか尽き、春は草色に隨つて南に向かつて深し)

(劉長卿)

書体＝自由

禽語吟修竹

(禽語つて修竹に吟ず)

(陶潛潛)

書体＝自由

漢字条幅規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小伏小扇選書

習い方解説 (六)

小伏小扇

鶯がしげつた竹林にさえずると
いう孫綽の句を選びました。この

修は長いの意。

いよいよ最終回となりましたので、スピードをつけて運筆してみました。スピードをあげると線は冴えますが、筆のくい込みが浅くなりがちです。その点に留意しながら何度も練習してください。

習い方解説 (六)

千葉蒼玄

千字文（せんじもん）は天地玄黄から
焉哉乎也に至るまで、天文、地理
政治、経済、社会、歴史、倫理などの
森羅万象について述べた、四字を一句
とする二百五十個の短句からなる
韻文である。

蒼玄書

書を習ったものであれば「永字八法」と「千字文」は必ず通らなければならぬ道である。六朝時代の周興嗣が一晩で同じ漢字を用いないで四文字句を250種類1000文字集めたものであるが、初めの「天地玄黄」はあまりにも有名である。古典の中にも名品が多く智永『真草千字文』はじめ孫過庭の草書千字文、懷素の『草書千字文』(『千金帖』)王羲之の字を集字したものなど種類も多い。また、草書、篆書など普段使われていない書体を覚えるために、五体千字文と呼ばれる楷書、行書、草書、隸書、篆書を並べたものも作られた。四字句ということで覚えやすく日本人にもなじみやすいためか、個展や展覧会作品に用いる人も多いが、千字文書き上げた時の達成感は大きいものがある。

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

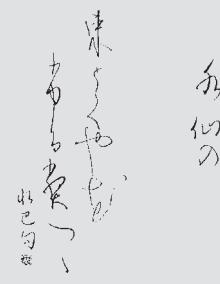
今月の

ホープ作品 各部総評

No. 621

かな部 師範 後藤恵津子
構成は参考手本によるが、自在な筆致とその叙情性は、豊かで典雅な独自の世界を創り出し見事。

◎かな部総評 構成の工夫はよくされていたが、かな遣いに無頓着な人が多かった。旧かな遣いを正しく把握する努力を。（明子評）



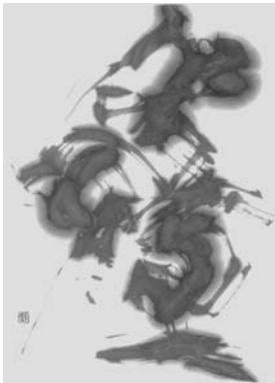
かな条幅部 四段 藤原三枝子
嫋やかなリズムと墨色の美しさは群を抜く。軽妙なタッチは、モダンさと甘さが紙一重となります。

◎かな条幅部総評 変体がな所空の草書に誤字散見。かなは字の大小、疎密が極端になると品位を欠きます。調和大切。（洋子評）



漢字条幅部 師範 土屋 里美
今少し冒険がほしい気もするが参考手本と又違った行書作品となっている。黒白のバランスもよい。

◎漢字条幅部総評 手本を参考に書作する時も個々の文字は辞書で確認したい。書体の曖昧、誤りで残念に思うこと多々。（翠風評）

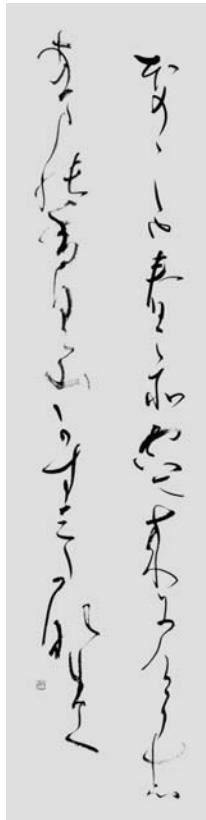


前衛書部 特選 阿部 邑里
墨色と滲みが美しい。構成の巧みさから見える躍動感もあり、心にしみる一作である。

◎前衛書部総評 表現豊かな作が多く見られ向上力が感じられた。更なる感性に磨きを。（蓮紅評）

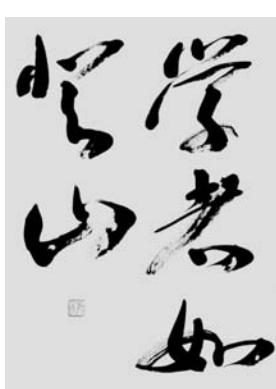
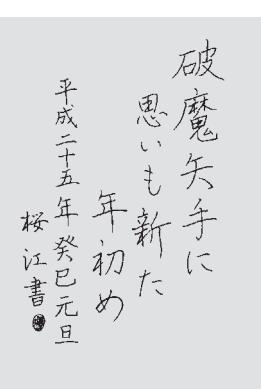
現代詩文書部 特選 上路 彩炎
大胆な発想、計算されたかのように紙面構成、淡墨による鍊度の高い直線での表現がすばらしい。

◎現代詩文書部総評 様々な表現で楽しい作多数、目的が見えてこない作も多く再考を。（無極評）



ペン字部 師範 山崎 桜江
確かな筆致で一点一画しっかりと書けている。流れもありリズムもうしても字形がゆがむが行草を交じえて流れを出した作が多く見かけられた。（蒼玄評）

◎ペン字部総評 大字になるとどうしても字形がゆがむが行草を交じえて流れを出した作が多く見かけられた。（蒼玄評）



漢字部 師範 磯貝 清耀
爽快な雰囲気漂う品の良い作。
無理のない自然な筆致が暢びやかさを醸し出している。

◎漢字部総評 上級参考例による隸書表現多かったが基礎力の不足が目立った。下級も含め基礎基本の表現力、技術の向上を。（大雲評）

今月の

特別研究部優秀作品(特選)



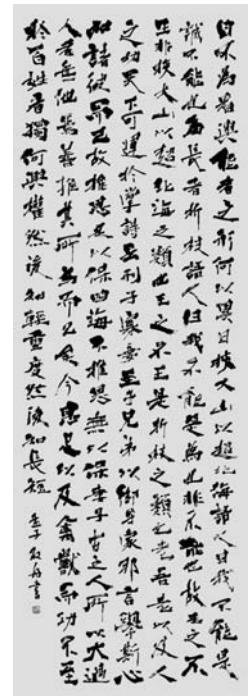
84×84cm

- ◆茶淡墨による潤渴の変化が美しいリズムを伴い爽やかな作となつた。下部や字形線質が甘かつたか。
◆詩文書にしても歌意の表現は難しいと思うが、味のある筆触が風情を現し、景色が浮んで楽しい。

(洋子評)
◆満月、醉、歩を大きく書き、軽快な表現の中にアクセントとなる。変化多彩な作調を淡墨で纏める。
(萬城評)

◆墨のにじみがリズムをとる様に表現され詩の流れを感じさせてくれる。軽やかな線一層冴えている。
(倫子評)

現代詩文書
(千葉)
平野笛舟 「範子のうた」



180×60cm

- ◆張孟龍碑を彷彿とさせるタッチで長文をまとめ、小気味よいリズムを貫く。墨量の工夫で全体を締める。
(洋子評)
◆北魏の楷書の石刻文字を用い、デフォルメをして獨特のリズム感がある作品を生み出した。上質の作。
(萬城評)

◆方筆の特長を發揮した楷書作だが、潤渴の変化をバランスよく配置して動きある作となつた。
(大雲評)

前衛書
(蓮紅)
大友紅蓉 「希」



180×60cm

- ◆筆の廻転すばらしい。全体を使つての運筆で紙全体の流れを表現されているのが魅力的。
(倫子評)

◆多彩な線に巧みな造形感覚、そのセンスに感動。やゝ創りすぎたかとも思うが、余白が生きて美しい。
(洋子評)

◆やや粗削りな感があるが大胆な運筆が紙面に大きな動きを与える。痛快な作。下部やや走りすぎか。
(萬城評)

◆筆の動きが大胆で、躍动感に溢れる線の表情が魅力的。スピード感があり、気魄と生命力を感じる。
(萬城評)

漢字 (千葉) 竹浪叙舟 「孟子」

竹浪叙舟

◆張孟龍碑を彷彿とさせるタッチで長文をまとめ、小気味よいリズムを貫く。墨量の工夫で全体を締める。

◆長文の表現に墨だまりを上手に配置して全体を沈めばらしい。

筆先の変化が一層迫力を増している。
(倫子評)

◆方筆の特長を發揮した楷書作だが、潤渴の変化をバランスよく配置して動きある作となつた。
(大雲評)

◆長文の表現に墨だまりを上手に配置して全体を沈めばらしい。

漢字研究部
(顏氏家廟碑)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



磯地 白麗

漢字研究部 特選 磯地 白麗
基本の用筆が正確に表現されています。又、結体も安定し、筆力も強く、筆勢鋭く、規模も雄大です。顏真卿の書で最も特徴的な縱画から趯(ハネ)に移るときの、筆を吊り上げる筆法が実に見事です。

◎漢字研究部總評

顏真卿の書の筆法は王羲之にはないもので

あって、王羲之を手本としながらも、さらに古い時代に帰り、そこから何か新しいものを創造しようとした苦心のあとが窺えます。気力が充実し、エネルギーが内に凝結したような楷書を表現するのに、用筆の正しい理解が必要です。この作品の特徴的な部分は、趯に移る時の吊り上げた筆を挫く用筆です。筆を紙から離さずに加圧することが大切かと考

えますが、一部の作品が離されていました。



景玉永麗 瑶秀
峰葉簾苑 翠子

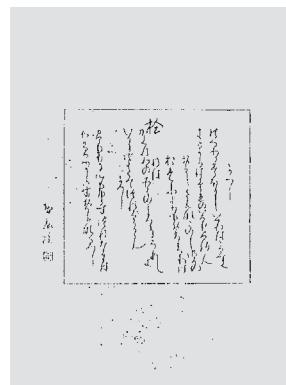
良千裕千華
鶴子子 映晶香
瑛翠卿雲夫彦

泰琢雲紅紀俊
久信咏美直
流子代艸梢子

かな研究部
(一条摺政集)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



鈴木智広

◎かな研究部総評

臨書の途中で、原本から離れ我流に陥らないよう
に「原本に忠実」という基本を忘れないで下さい。
字形、墨継はもちろんですが、筆の選択も大事です。

かな研究部 特選 鈴木智広

幹良加
生泉都

芙蓉香美
汀舟雪

彩昌佳代
香子子

寿桜白
子江鈴

秀秀こ高澄大も
水明だ真春阪く
秀
門大梅宇生青
脇森石山田駒木
川
信喜星久春萩藤
子代祥子華蓮
千葉佳立
足立作
万秀子
竜高
蘭崎入
浅青會
川木木
み江
な理勇
江子介
千石湘
柴佐佐
煌代詠
月子子
大京北
遷阪橋
外
169名
波名羅
略
蓮東己
澄英調
高澄長
未葉春
峰布丁
露習張
崎春月
会橋秋
春阪橋
北別福
深廣平
春林花
秦皇根
西西浪
永中積
津近田
田高高
平泉鈴
新庄七
重里野
山津澤
岡川井
田池原
野中橋
橋橋
水木木行
司條信
つ内
吉横遊
山山柳
村武宮
松松增
増北別
福深廣
平春林
花秦皇
根西西
浪永中
積津近
田田高
高高平
泉鈴新
庄七重
里野山
津澤岡
川井田
池原野
中橋橋
橋橋
水木木行
司條信
つ内
四蘭紅
政龍蕙
津陽愛
翠玉華
佳靖信
キ佳美
優勝深
玉智喜
芝飛彩
悦秋宏
澄雅幸
柳蕙可
蒼志雅
幸杏龍
や香鶴
咏裕裕
美映

かな研究部成績表

芳昌樹松こ玉千正京秀椿の上さは秀書春泉春章幕う千春竜昌竜椿大椿鬼鉢大玉筑上椿澄秀澄千和大生正大こ高生
蘭苑原村だ川葉華橋水翠か泉つせ戻泉汀会汀泉張る葉汀泉苑翠雲扇高山阪藻桜泉翠平雲大華阪大
高崎入
渡吉遊茂宮湊松松堀福平浜浜長都渡辻辰高高進没佐櫻坂後小黒工神川小荻大達岩井岩井猪井磯井元
邊田佐木川重岡川島山野田田谷島丸子本山橋藤谷々田巻藤林柳藤田崎野原西沢藤瀬崎野元
妃和かとみ木美
信翠一翠洋美翠律魯歌つ永陽よ久一ど紀洋光花賢寿愛和龍麗知晃竹香典綾萩玉一淑珙祥洋玉理英清さ
綾榮芳子景子春子蟹一子水り子子景子春雲子華貞苑代葉蘭子美光藻美江樂園子香扇二羅子溪栄枝實
千石湘八硯高樹翠蒼詢奥大た蘭N竜若う正幕生彩広艸竜こ華青安豊大伏澄高清A石土前高誠千石彩や正誠八岩誠
葉習南街水崎原陰陽扇田阪か鼎H泉葉る華張大島玄泉こ祥峰波田阪華春井月I習氣橋真と葉習ま華和戸沼和秋華翠
柴佐佐酒近込小小小河小小吳工木木北北岸川亀加加加鹿小押小小榎江生内臼碓岩入今大伊伊市石石石石安阿
雲藤藤々々井藤林山林林野板泉藤村原村又田本井藤藤島野野山熊川田田方井上谷閑鉄藤東藤川川崎崎川川藤部
佳木木美構智寺寺喜由
煌代詠町雅惠淑閑蕙澄純萩啓く江豊山順輝蕙春東南紫龍翠雅裕久玉純代輝和茂美皓綾郁悠梨道敏京英順紫正甘洋津代雅
月子子華芳子窓子子風江子子美房子子舟峠子汀風蕙陽太美華子子峠子夫子泉乃弘子花霞石子子子泉子雨子子子
大京北竹蓮東己千澄英調春白石幕高澄長泉前有澄大土前八幕秀東高遊北澄正調大卯翠春泉英樹竜澄青竜安香澄樹八皓
遷阪橋陸美紅伯未葉春峰布丁露習張崎春月会橋秋春阪橋街張水敢向崎雲陸春華布雲月柳汀会峰原泉春峰波月春原雲映
外
吉横遊山山柳村武宮松松増増北別福深廣平春林花秦皇根西西浪永中積津近田田高高高平泉鈴新庄七重
名波田山佐本根口坂山藤野村丸島浦田條府田澤地山山里野山津澤岡川井田田池原野中橋橋
水木木行司條信
つ内
四蘭紅政龍蕙津陽愛翠玉華佳靖信キ佳美優勝深玉智喜芝飛彩悦秋宏澄雅幸柳蕙可蒼志雅幸杏龍や香鶴咏裕裕
美映